

⑩ 出向者報告

(公社)日本青年会議所 共創グループ
会員発掘会議 委員 國分久徳

まずは本年度、公益社団法人日本青年会議所共創グループ会員発掘会議に委員として出向させていただきました佐川理事長に心より御礼申し上げます。現役ラストイヤーに日本本会に出向することができ、とても貴重な経験と成長をすることができたと感じております。ありがとうございました。

会員発掘会議では JCI 浪江の鈴木一成君が議長を務めたということもあり、一年を通して楽しく活動することができました。会員発掘会議の主な政策として、全国の成功事例や拡大情報を活用し、LOM の規模や特性に合った拡大手法を提供し支援すること、そしてコロナ禍においても会員を増やし、退会者を抑制する仕組みづくりと会員純増を共に実現することを掲げて活動を展開してまいりました。

JCIもとみやでも8月例会に会員発掘会議の鈴木議長を講師としてお招きし、「～何故、ラーメン屋に人が並び、ジムに通うのか?～」と題し、会員拡大についての基調講演を開催することができました。現役ラストイヤーでの、この経験を活かし、JC を卒業してからも地域の未来のため、社業を通じて精一杯地域に貢献していく所存です。現役メンバーの皆様におかれましては、OB として活動を見守っておりますので、気概を胸に一步踏み出しチャレンジし続けて、現役の貴重な時間を有意義なものにしてください。一年間ありがとうございました。

(公社)日本青年会議所 東北地区福島ブロック協議会

2022 年度副会長 菊田広嗣

本年はアカデミー委員会担当副会長として、県内各地会員会議所よりお預かりした次代を担う大切なメンバーをどのようにして即戦力として成長させ LOM へお返しするか、そのためにはどのような機会を提供すべきか、そもそも「即戦力とは何か」ということから委員長と共に考え、その答えとして「未来を巻き込む即戦力となる」をテーマに事業を構築させていただきました。更には、ただ事業を行えば良い、機会を与えれば良いというだけではなく、どのような機会を提供すべきか、提供する機会を受け止めていただけるだけのモチベーションや器は備わっているか、そのモチベーションや器そのものをどのようにして形成するか。事業を構築する中でそのようなことにまで考えを巡らせることができるようになり、その想いをスタッフでも共有することで、委員長をはじめとするスタッフ全員、そして何より私自身がアカデミー委員会のメンバーとともに成長させていただきました。

本年、出向し成長する機会を頂戴し、副会長として責務を果たすことができましたのも、快く送り出させていただきました LOM の皆様のご協力の賜物と思っております。一年間ありがとうございました。

(公社) 日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会

ブロック大会実行委員会 委員 国崎 雅樹

去年そして今年と2年にわたりブロック大会実行委員会委員として出向させていただきました。仕事の関係上実行委員会に参加するのが少なかったのにもかかわらず、「当日式典を一生懸命にやってもらえればいいよ」と深谷委員長に言われました。絶対に式典を成功させると自分に言い聞かせて、ブロック大会実行委員会式典のリハーサルや式典に積極的に参加させていただきました。委員長や委員の皆様と式典をどうすれば成功に導くのかコミュニケーションをとりながら式典をやり遂げた充実感は今でも覚えております。

出向する前は自分で考えて行動することが出来なかった指示待ちの自分が、出向後は自分で考えて行動することを少しずつ身につけることが出来ました。

最初に出向を躊躇していた時に佐川理事長から「国崎君ならできるよ」と背中を押して自分を信じてくれたあの言葉には本当に感謝しております。

佐川理事長をはじめメンバーの皆様、見守っていただきありがとうございました。

心より感謝申し上げます。

(公社) 日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会
組織連携推進委員会 委員 大浪遼太郎

2022 年は昨年に引き続き(公社)日本青年会議所 東北地区福島ブロック協議会 組織連携推進委員会に出向させていただきました。まずは出向させていただきいただいた佐川理事長をはじめ、LOM の皆様に心より感謝を申し上げます。

さて、青年会議所がSDGsの理念に共感していることは周知の事実かと存じます。当委員会に於いても、SDGs 活動を推進するために女性メンバー活躍推進セミナーといった事業を行いました。今年は大勢の会員に入会していただきましたが、特に女性会員が 5 名も増えたことは大変喜ばしいことだと感じております。

私は本宮・大玉地区にて女性入会実績のリサーチを担当していました。そこで見えてきたのは、小さいながらも確実に SDGs は影響力を増していること、そして確実に人々にインパクトを与えているということです。個人から団体まで、其々が自身で出来る SDGs を実践しており、その活動はどんどん広がっています。

時間が取れず会議に参加出来ないこともありましたが、出向して大きく自身を成長させることが出来たと思います。

改めて、このような機会を与えてくれた LOM の皆様に感謝を申し上げ出向者報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。

(公社) 日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会
アカデミー委員会 委員 増子 桃子

2022年度入会と同時にアカデミー委員会に出向させていただき、各LOMの方々と活動を共にすることにより、知識を深め、視野が広がる貴重な経験となりました。仕事の都合によりオンラインでの参加も多くなってしまいましたが、リアルとオンラインのハイブリット開催のおかげで、少しでも多くの学びの機会を頂くことが出来たことに感謝致します。

RESASの活用法や、プレゼンテーションの仕方、中期ビジョンの作り方等、非常に勉強になりました。また、ただ学ぶだけでなく実践でのアウトプットまで行え、更に、沢山の頼もしいアドバーザーがいるアカデミー委員会の環境は素晴らしいものでした。仲間と共に意見を出し合い、一つの目標に向かって取り組めたことも、とても充実した時間でした。

シュプレヒコール「レッツゴー チャレンジ」の通り、自らがチャレンジする意思をもって、今後も地域活動に邁進して参ります。

(公社) 日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会
アカデミー委員会 委員 森 潮風

仕事の都合、新型コロナウイルス感染症感染拡大による職場からの会合出席の自粛要請により、ほとんど出席できず、委員会及び LOM には大変ご迷惑をおかけしました。

数少ない参加でしたが、塾内で自分の意見を述べることができ、掲げた「自信を持って活動できる自分になる」というスローガンを少しは達成することができたように感じます。また、中期ビジョン作成にあたり、ご指導いただいた内容はこれから活動していくにあたり、大変ためになりました。そして何より、LOM 以外のかげがえのない仲間をつくることができました。

2023 年度につきましては、当会から 5 名も出向されるとのことで、あまり参加できなかった私が言うのも何かとおこがましいのですが、素晴らしい経験と仲間との出会いが必ずございますので、ぜひ MVP を目指し活動していただきたく存じます。